

山陰総合

購読の申し込みは TEL 0120(49)25500 午前9時30分～午後5時30分

両県 18、19歳初めて投票

それぞれの思い託す

「意外と淡々」「難しかった」



初めての1票を投じる佐々木彩乃さん＝松江市浜乃木5丁目、乃木小学校

改正公選法で選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられた参院選で、投票日の10日、山陰両県の各投票所でも18、19歳が初めての1票を投じた。緊張した面持ちで投票箱の前に立ち、それぞれの政治への思いを票

紙に託した。出雲市斐川町富村の伊波野コミュニティセンターに設けられた投票所で午後8時、1票を投じた大社高校3年の坂本拓城さん(18)は「意外に淡々と進んだ」と笑顔を見せた。

初めて1票を投じる佐々木彩乃さん(19)は「意外と淡々と進んだ」と笑顔を見せた。同日投票所には、今春高校を卒業し、大学進学を目指す松江市民乃木7丁目の高橋拓奈さん(18)も、母親に誘われて足を運んだ。記載台で記入方法に戸惑い

りも練習時間を短縮し、約10分離れた高校から父親が車で一緒に投票所に向くなど、周囲の大人のサポートもあった。

平成 28年 7月 11日付・山陰中央新報

地元食材でニューオーリンズ料理

給食に「ガンボスープ」

「おいしい」児童笑顔



給食でガンボスープを味わう児童たち

松江市の友好都市である米国ニューオーリンズ市の郷土料理「ガンボスープ」が12日、松江市大輪町の島根大付属小学校の給食で提供された。両市ゆかりの文豪・小泉八雲が書いたレシピ本をもとに、松江市のオーリンズ肉を使った料理の一つ。卒業研究で、野生鳥獣の

肉(シビエ)の活用策について山本豪さんと森脇未貴さんが、煮込むことで軟らかい食感が引き出されるインシシ肉に着目。ニューオーリンズ市に10年間滞在した八雲の著書「クレオール料理」を参考に、松江市民八雲町のインシシ肉と同市東出雲町産のオクラを使ったレシピを提案した。学生が給食での提供を望んでいたことから、地元食材の活用を促進させる「ま

平成 28年 7月 13日付・山陰中央新報

バングラ学生ら87人

サイバー防犯 県警本部で委嘱式

学生にインターネット上の犯罪を通報してもらう「サイバー防犯ボランティア

ア」の委嘱式が13日、松江市殿町の県警本部であった。日本人7人らが犠牲となっ



榊原優二部長（左）から委嘱状を受け取る学生ボランティア

た飲食店襲撃テロがあったバングラデシユ出身の学生2人を含む87人が新たに委嘱され、架空請求や違法画像の投稿といったサイバー犯罪に目を光らせる。制度は2012年度から導入。ネットを扱う機会が多い島根大と県立大、松江工業高等専門学校に呼び掛け、希望者全員を1年間の任期で委嘱している。県警生活環境課によると、15年は違法画像の掲載など2件の通報があった。16年度は継続した学生を含め過去最多の計164人が活動する。

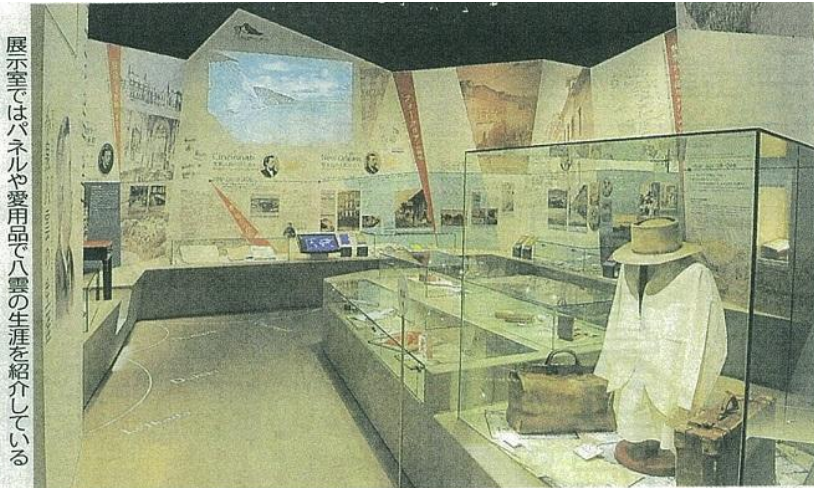
委嘱式で榊原優二生活安

全部長は「共に防犯意識向上の輪を広げたい」と期待し、学生代表の島根大総合理工学部4年、石川司さん(22)は「安心安全なサイバースペースの確保に取り組む」と決意表明した。

14年度から募集枠を外国人に広げ、16年度はバングラデシユ2人、韓国、ベトナム、アフガニスタン各1人が新たに加わった。同大学院で4月から留学生生活を始めたバングラデシユ出身、エムディアーシャド・アリさん(33)は「勉強と同様、活動に力を入れたい」と話した。

(鎌田剛)

小泉八雲記念館 装い新た

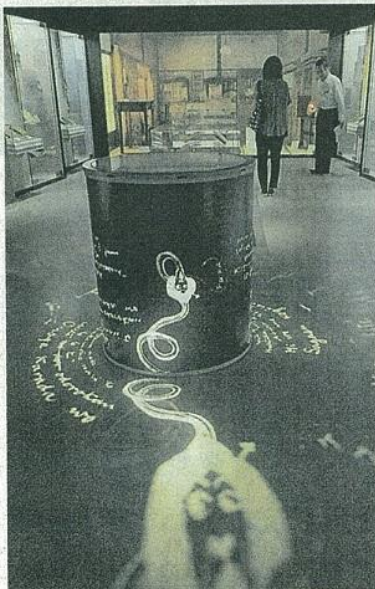


展示室ではパネルや愛用品で八雲の生涯を紹介している

「怪談牡丹燈籠」を初公開 精神迫る展示構成に

松江

小泉八雲記念館（松江市奥谷町）が増改築工事を終え、16日にリニューアルオープンする。収蔵品を以前の1千点から1500点に増やすとともに、生涯をたどりながら八雲の「開かれた精神（オープンマインド）」に迫る展示構成にした。松江市出身の俳優佐野史郎さんが朗読する怪談を聴けるコーナーも設けるなど、飽きさせない内容に仕上げた。（曾田元気）



1933年の建設後、84年に解体、新築したが、施設が手狭になり、2016年1月から休館。市が5億2千万円をかけ、隣地に2階建て施設を増築し、延べ床面積を約3.7倍の660平方メートルに広げた。三つの展示室では、米ニューヨークや松江など各地での八雲の暮らしや価値観の変容を、パネルや写真で分かりやすく紹介。初版本、家族からの手紙なども並べた。

松江市出身のギタリスト山本恭司さんの演奏に合わせ、佐野さんの朗読を聴くコーナーは、ボタンを押すと「河童の詫び証文」など山陰地方にまつわる五つの怪談が流れる。企画展示も充実させ、世界各国で上映された映画「怪談」のポスター、ちりめん本などが並ぶ。5月に横浜市の小泉家で見つかり、八雲が再話「恋の因果」の題材にしたと考えられる、落語家の作品「怪談牡丹燈籠」を初公開した。

2階には関連図書を集めたライブラリーや多目的スペースを設けた。八雲のひ孫で館長に就任した小泉凡さん（55）は「八雲ゆかりの地の中でも松江は特別。地域の誇りになるミュージアムにしたい」と意気込んだ。14日に報道陣向けの内覧会があり、15日には関係者によるオープニングセレモニーを行う。同館は2010年度以降、年平均9万6千人が入館している。

八雲の価値観に触れることができる展示室

地域活性化案2件を採択

県立短期大学の学生が企画した地域活性化策に 大学側が経費助成する「キラードリームプロジェクト」

県立短期大学の学生が企画した地域活性化策に 大学側が経費助成する「キラードリームプロジェクト」



考案した地域活性化策を発表する学生たち

ト」の公開審査会がこのほど、松江市浜乃木7丁目の同学部であり、外国人を対象にした平和学習と、松江観光のプロモーションビデオ(PV)作成の2件が採択された。

プロジェクトは、学生の企画力や実践力向上を目指し、毎年実施している。今回は、最大25万円を助成する「ドリム枠」に2団体が応募した。

総合文化学科1年の田川志織さん(18)らのグループは、外国人を交えた平和学習を提案。第2次世界大戦を扱った国内外の教科書を見比べ、平和記念公園(広島市)を訪れて意見交換し、

相互理解につなげるとした。

同学科2年の近藤秀行さん(19)らのグループは、あまり知られていない松江をテーマにしたPV作成を提案。防衛上、遠方が見通せないよう鍵形に曲がる道が今も残っていることなどを紹介し、インターネット動画サイトへの投稿を求めた。

独創性や波及効果など5項目について5人が審査し、両企画を採用した。岸本強副学長は「夢の実現に向け、多くの人と連携してほしい」と話した。

(岩井彩佳)

平成 28 年 7 月 15 日付・山陰中央新報

清水康弘長官(右)に要請書を渡す溝口善兵衛知事(左)。東京都港区、原子力規制庁



の)申請は了解したが、審査を厳格に行った上で丁寧な説明してほしい」と述べた。

(大野敬章)

島根県立大が 学外理事増員

外部経営委員も

島根県立大は14日、大学運営に県民の意見を広く反映させるため、学外からの理事を2人増員し、経営委員会の外部経営委員も1人増やしたことを明らかにした。

学外理事は、岩多屋(浜田市浅井町)の岩谷百合雄

社長と三維(江津市江津町)の平下洋子会長。経営委員会の外部経営委員は、県公立高校長協会の泉雄二郎会長。いずれも既に就任し、任期は1日から2017年3月31日まで。学外理事は3人に、外部経営委員は4人に増えた。

同大は学外からの任命増に向け、定員を理事4人以上、経営委員10人以上としていた定款を6月に変更。理事が経営委員も担うことは変わらず、今回の増員によって理事6人、経営委員13人となり、定款変更後の定員の上限に達した。

浜田市野原町の同大浜田キャンパスであった定例会見で、本田雄一学長は、松江キャンパス短期大学の4年制化や、浜田キャンパスの学部増設要望への対応も含めた将来構想などを挙げ「大学への県民の関心が高くなっており、広く意見を反映できる仕組みをつくらせたい」と意図を説明した。

(吉川健治)

平成 28 年 7 月 16 日付・山陰中央新報

「読み聞かせ」8割週1回以上

島根県立大短期大学部内の児童書専門図書館「おはなしレストランライブラリー」（松江市浜乃木7丁目）のスタッフが昨年度、松江市内の幼稚園と保育所に通う子どもを持つ約4千家庭を対象に実施した、家庭での読み聞かせに関するアンケート調査の結果がまとまった。8割が週1回以上読み聞かせを行っているほか、父親も5割の家庭で実践していることが分かった。

（増田枝里子）

おはなしレストランライブラリーで読み聞かせを楽しむ親子（資料）



81%が週1回以上読み聞かせしていることが分かった。「月1~2回」は12%、「ほとんどしない」が7%だった。

島根県立大短期大学部調査

読み聞かせを「ほとんどし

父親も頑張り5割

スタッフが同大の岩田英作教授（児童文学）らが、家庭での読み聞かせの実態を把握しようと昨年6~7月、市内の幼稚園・保育所94園を通じてアンケート用紙を配布し、4022家庭から回答を得た。

「読み聞かせをするか」の問いに「ほぼ毎日」と答えたのは28%、「週3~4回」22%、「週1~2回」31%で、「ほとんどしない」が7%だった。

読み聞かせをする人を尋ねた問い（複数回答）では、子どもの「母」が91%を占める一方、「父」も53%に上り、多くの家庭で夫婦が協力して読み聞かせをしていることをうかがわれた。他には「祖母」19%、「兄弟姉妹」13%、「祖父」6%などだった。

父親ら男性の読み聞かせを呼び掛ける「読みメン」を提唱する岩田教授は「お父さんが予想より多い印象だ」と、読みメン普及への手応えを感じた。

絵本の入手先は「保育所、幼稚園で借りる」が38%で「書店等で購入する」が37%とほぼ同数。一方「公共図書館で借りる」は16%にとどまり、岩田教授は「本の種類の豊富さから言えば、公共図書館が便利なのは確かだが、利用は多くない。図書館側も『持ち』の姿勢でなく、児童図書サービスを発信していかなければいけない」とした。

平成 28 年 7 月 16 日付・山陰中央新報

8カ国のビール「ぐいっ」

世界8カ国のビールと、音楽を楽しむイベント「世界の料理とビールの音楽祭」が24日、松江市殿町のカラコ工房を主会場に開かれた。市民や観光客が珍しい外国ビールの飲み比べを楽しんだ。

米国出身で島根県立大短期大学部講師のダスティン・キッドさん（38）は「松江市東津田町」ら有志でつくる実行委員会が主催。キッドさんが以前暮らしていた北海道室蘭市では、ビールを味わうイベントが盛んで、「松江も

松江で音楽と楽しむ催し 市民ら飲み比べ堪能



珍しい外国の生ビールを楽しむ来場者（松江市末次本町、カラコ工房）

ビールで盛り上げようと2012年から始めた。今回は過去最大規模の催しとなり、8店舗が出店。20組以上がステージでジャズやロック、フラダンスなどを披露し、約2500人が詰め掛けた。米国のクラフトビールなど、普段は手に入りにくい外国の生ビール計26種類が店舗にそろい、蒸し暑さも手伝って飛ぶように売れた。

松江市西浜佐陀町の歯科医大町健介さん（54）は「松江で飲めない珍しいビールがあり、シヨも楽しめた」と満足した様子で話した。（鎌田剛）

平成 28 年 7 月 25 日付・山陰中央新報

加賀の潜戸など探訪

探訪隊 山陰の魅力再認識

松江



山陰両県の地域資源の発掘と情報発信を手掛ける「山陰いいもの探訪隊」が27日、松江市島根、八束両町を探訪した。加賀の潜戸を遊覧船で巡ったほか、加賀神社や由志園を訪ねて山陰の魅力を再認識した。

キャプテンの木内吾平さん(42)と、隊員で松江ゆかりの文豪・小泉八雲のひ孫の小泉凡さん(55)が制帽をかぶり、1日かけて各地を回った。

このうち、八雲が妻のセツと訪れた加賀の潜戸(松江島根町)では、出雲国風土記に登場し、佐太神社(同市鹿島町)の祭神・佐太大神の誕生地とされる「新潜戸」を周遊した。写真。

同所は、八雲が著書「知られぬ日本の面影」でこれ以上に美しい洞窟はない」と絶賛した場所と知られる。2人は洞窟内にたたきつる雪に手を伸ばして楽しんだ。木内さんは「山陰には神秘的な場所がたくさんある。もっと発掘したい」と話した。

「山陰いいもの探訪隊」はJR米子支社が2014年に立ち上げ、現在の隊員45人。月1回の探検で発掘した「いいもの」を公式サイトで発信しており、この日の様子は8月上旬に公開する。(平井優香)

平成 28 年 7 月 28 日付・山陰中央新報

旅行企画立案競い合う



県立大短大部生 知恵絞り

6チーム 優勝すれば商品化

出雲港(出雲市斐川町神洲)開港50周年の記念事業で、松江市旗乃本7丁目の県立大短期大学部松江キャンパスの学生が出雲 羽田便を使った旅行企画コンテストに向け、知恵を絞っている。優勝チームの企画は、「畑トスバルサービス(松江千鳥町)が今冬にも商品化。26日は、学生が同キャンパスで中間発表を行い、関係者に企画プランをアピールした。(岩井彩佳)

日本航空が、50周年記念の社会貢献事業として同大に提案した。学生自らの斬新な切り口で新たな需要発掘に期待を寄せる。社と、企画実現に向け段取りや思考力を鍛えたいという大学側のニーズが一致した。

企画に盛り込むツアーの条件は「出雲 羽田便を使うこと」のみで、対象や日程、行動範囲や内容は全て自由としている。

出雲空港50周年記念事業

6チーム計17人が、10分間で日程や訪問先を選んだ思いを発表。趣やし「五感」など特色あるコンセプトや、開港先に込めた思いを発表した。

総合文化学科2年の江角拓馬さん(20)ら4人は、「出雲縁結び空港」という愛称に着目し、夫婦やカップルを対象に絞った案を紹介。都内で相手を思いを伝えるサプライズを計画。実行し、2人の歩みをスライドなどで振り返る企画を盛り込み、「出会った頃のときめきを思い出して仲を深めてほしい」とした。

発表を聞いた「畑トスバルサービス」商品企画課の藤岡雄太グループリーダーは「訪れる場所の紹介で、コンセプトに沿っていることをもっと強くアピールした方がいいな」とアドバイス。「発想が面白く、最終日が楽しみ」と期待した。

最終選考会は9月6日、8月27・12日に、出雲空港に各企画案を紹介するパネルを設置し、訪れた人に投票してもらい、審査にも反映する。優勝したチームの企画は12月から来年2月の間で、商品化する。

松江

平成 28 年 7 月 28 日付・山陰中央新報